



危険などを考慮し、16日1時15分に「災害警戒本部」を立ち上げました。

深夜から未明にかけて、ますます凄まじい勢いで雨が降り注ぎました。安曇川や鴨川の水位がどんどん上昇していき、2時30分過ぎに安曇川（常安橋）の水位が2・61mとなり、「はん濫危険水位」（2・54m）を超えました。

## 1万2千人に避難勧告発令

これを受け災害警戒本部では、午前3時に安曇川町、新旭町、高島の各地区へ、午前4時5分に朽木の各地区へ避難勧告を発令しました。

その後も、パトロール中の職員や市内各地の自治会役員、消防団の皆さんから続々と寄せられる情報を基に、今津町を加えた各地区へ避難勧告を発令。8時20分までに合計32地区、4,204世帯、1万1,270人の方に対して避難勧告を発令しました。

各地区へは、防災行政無線などで避難を呼びかけるとともに、避難所へ毛布やタオル、食料品などの物資を届けるなど、避難者の対応にあたりました。

量が500ミリを超えるなど、これまで経験した事のない記録的な大雨が降りました。

特別警報の発表を受け、対策本部では、防災行政無線、メール配信サービス、ホームページで情報をお知らせし、さらなる注意を呼びかけました。

## 甚大な被害状況が明らかに

夜明けとともに、次第に市内各地の被害状況が明るみになってきました。

朽木をはじめとする山間部では、豪雨の影響により多数の個所で崩土

今津町保坂の土砂崩れ



朽木古川。崩れた土砂で埋まった家

## ●避難勧告が発令されたら

高島市では、河川水位が上昇し、災害の発生する可能性がある場合に、避難勧告を発令します。避難勧告が発令されたら、すみやかに次の点に注意して避難を開始してください。

### 【風水害からの避難の注意点】

#### ■動きやすく安全な服装で

ヘルメットや防災ずきんで頭を保護してください。靴はひもでしめられる運動靴にしましょう。裸足・長靴は厳禁です。（長靴は、水が入ると重くなり、動きにくく、またすぐ脱げてしまいます。）

#### ■足元に注意

歩行可能な水深は、一般的に男性で70cm、女性で50cmといわれていますが、特に水害時、水面下にはマンホールが外れていたり、側溝や段差があったりするなど危険が潜んでいます。このため、長い棒を杖代わりに突き、確認しながら歩くなど厳重な注意が必要です。

#### ■隣近所で声を掛け合い、集団で避難する

単独行動は危険です。はぐれないようお互いの身体をロープで結ぶなどして避難してください。

#### ■災害時要援護者の安全を確保

高齢者や傷病者などは背中に背負い、子どもには浮き袋をつけるなどして安全を確保してください。

## 鴨川が決壊し、濁流が集落飲み込む

降り続ける雨の状況や、安曇川や鴨川の水位の状況等から、大規模な災害が発生する恐れがあると判断し、4時18分に「災害警戒本部」を「災害対策本部」に移行しました。人員を増やし、情報収集や避難者の対応等を強化していたところ、4時30分に鴨川（鴨川橋）では最高水位となる3・04mまで水かさが増し、そして、5時ごろ、野田橋下流の宮野地先の右岸が決壊しました。流れを変えた濁流は、高島の南鴨集落を直撃し、宿鴨・永田・出鴨を浸水させ、萩の浜・下小川（三ツ矢・出福

まで達し、多くのものを押し流しながら、琵琶湖へと流れ込みました。これらの地域では、腰の高さまで濁流が押し寄せ、いつもの見慣れた風景は一変し、あたり一面が水面と化していました。自動車や家財道具が流されたり、家屋に濁流が浸入してきたり、刈り取りを待つ田んぼが広範囲で水没したりするなど、現実とはかけ離れた光景が広がっていました。

暴風雨が吹き荒れ、次々と避難勧告の区域を広げているさなかの、5時5分、気象庁から全国初となる「特別警報」が滋賀県、京都府、福井県全域に発表され、対策本部ではさらなる緊張が走りました。

今回の豪雨では、朽木地域で総雨

## 全国初の特別警報発表



救助活動を行う消防や自衛隊、警察

## ●特別警報

今年8月に創設された警報。数十年に一度の大雨などが予想された場合に気象庁が発表します。重大な災害が起こる可能性が非常に高まっていますので、ただちに身を守るために最善をつくしてください。

▼発表は自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、防災行政無線など情報の収集に努めてください。

や道路の欠損が発生。土石流が民家に押し寄せたり道路の通行を妨げたりするなどの被害をもたらしました。

道路の崩壊、陥没などによる通行不能により、被害直後14集落が孤立状態になり、多くの世帯の生活に重大な支障を与えました。このため最優先で当面の通行の確保を急ぎ、翌日には何とか孤立状態を解消することができました。この他にも、水道施設の損壊による断水、家屋の床上・床上浸水、家屋の破損、河川の護岸損傷・崩壊、農地の埋没等、被害は広範囲に及び、甚大かつ深刻な被害の実態が明らかになりました。

これらの被害から一刻も早く以前の生活に戻るよう、国や県と連携しながら、全力をあげて復旧作業に取り組んでいます。



安曇川の堤防（川島地先）。堤防の内側は破損しませんでした。が、堤防に浸透した水により外側の道路がえぐりこむように破損しました。



災害対策本部会議。会議は災害発生から本部が解散する9月30日まで毎日続けられました。

## 被害の状況 10月17日現在

### ●住家 (単位：棟)

区分	マキノ	今津	朽木	新旭	安曇川	高島	合計
床上浸水 (大規模半壊)	-	-	1	-	-	-	1
床上浸水 (半壊)	-	-	5	-	6	97	108
一部損壊 (床下浸水)	3	18	24	17	38	76	176
一部損壊	-	-	-	-	-	1	1

### ●人的

・軽傷 3人（救助活動中の消防職員等）

### ●道路・橋梁 (道路崩壊、路肩欠損等)

・国道・県道 24か所  
 ・市道 87か所  
 ・橋梁 1か所  
 ・林道 246か所

### ●農地

<田>  
 ・流失・埋没 61.97ha  
 ・冠水 98.00ha  
 <畑>  
 ・流失・埋没 0.56ha

### ●河川 (施設の破損など)

・県管理 63か所  
 ・市管理 16か所

### ●その他 (施設の破損など)

・学校施設 6か所  
 ・学校施設 6か所  
 ・崖くずれ 39か所  
 ・水道断水 751戸  
 ・砂防 34か所  
 ・水産 3か所 (やな等)  
 (今津 (32戸)、朽木 (341戸)、高島 (378戸))